

## ～あなたの泉は溢れ流れていますか？センスの良い人に!!～

私たちの人生の中で見ただ目で判断して、「こっちがいい」「こっちがいい」と言って飛びついていないでしょうか。私たちは何によって判断していてそれが間違っていると誤った行動につながっていきます。私たちが収穫を目の前にして誤った行動をしてしまい、収穫することができなくなってしまうことがないようにしないといけません。（創世記24章）この箇所はアブラハムの息子であるイサクのお嫁さんを探していく話です。アブラハムは息子のお嫁さんは父と蜜の流れるカナンの地から選ぶのではなくアブラハムの故郷から選ぶようにしています。それはカナンは異教の地だからでした。アブラハムは息子に神への信仰を継承させるために同じ信仰を持った人を選ぶために生まれ故郷で探すようにしました。アブラハムは高齢のためにしもべを遣わすことにしました。そして遣わされるしもべは神と主人に忠実に仕えて旅路を進めていきました。そして生まれ故郷の井戸の傍でリベカに出会いました。しもべは神に祈った後、言葉をかけて出会ったリベカさんと一緒に帰ることができるようになりました。私たちは時に応じて大切な言葉、取るべき行動があります。リベカはらくだの疲れた様子などからどういう状況なのか分かりました。そして取るべき行動をしました。そしてしもべからリベカは人が寝泊りする場所がありますかと聞かれましたが、その前にらくだの飼料について答えています。しもべが感じたことはリベカの優しさであり、神の摂理でした。当時旅人をもてなすことは美德とされ、祝福された生活の象徴でもありました。神の摂理になるためにすべての事がしっかりと組み合わせられていました。リベカは家族との話しの中でアブラハムの元へ「すぐ行きます」と決断しています。リベカはこの事の背後には神が働いていると感じたからでした。これが“センス”です。私たちは神を感じることでできる才能や力が与えられています。それがセンスなのです。私たちは神のセンスによって「何か違うなあ～」と感じた時、まあいいかと言い、何もしないことや聞き従うことをしないでいいのでしょうか。反対にセンスの良い人は感じたままに行動をすぐ起こします。リベカはセンスで感じた機会を逃しませんでした。そのためには普段から私たちの心を見張っているのかということなのです。私たちはチャンスを逃さない人生となっているのでしょうか。私たちの目の前の畑は収穫時になり黄金色に輝いている状況です。そのような状況でも「あと何ヶ月ある」といって手をこまねていることはないでしょうか。それは今までの生き方を変えずにいることなのです。過去の生き方のままだと、チャンスが来たときに逃してしまいます。いよいよ私たちに収穫の季節がやってきました。今がその時です。しかし神さまが祝福しようとしているチャンスを逃してはいませんか。この収穫の時期が過ぎるとやがて冬がやってきます。冬をこえ、春がやってくると種蒔きの時期を迎えます。そして蒔いた種が育つと、秋には収穫ができるようになります。私たちはこれを繰り返しています。しかし今、収穫を逃してしまうと来年の春に蒔く種が無くなってしまいます。この種とは今年の感謝です。この感謝があるから来年も蒔く事ができるのです。このように神は私たちに摂理を持っています。偶然はありません。その時に与えられたチャンスはその時だけです。2つの道があり、選択する場合、片方を選んだのであれば、選ばなかった方の道はなくなってしまうのは当然です。結果的に同じところへ辿りつく場合もありますが、同じ道ではありません。だから一度しかないチャンスは絶対に逃さないようにしなければいけません。イエスの母であるマリアも神の時が満ち、天使が現れた時、「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。（ルカ1：38）」と言いチャンスをものにしました。このようにチャンスが来た時、私たちの心がどのような状況であるのが大切です。心が泉のごとく、豊かにあふれていないと目の前にいる人にあげることができなくなります。私たちは向きを変えて出発して歩み始めましたが、心はいっしょに変わりましたか。それとも心は変わらず、向きだけ変わったのでしょうか。私たちの心も神の摂理を感じ取れるように変わらなければいけませんし、チャンスに分け与えられるように泉のごとくあふれていなければなりません。私たちは偶然と神の奇跡で生きているわけではありません。神の計画は微細な部分まであり、私たちはその摂理に対して応答しなければいけません。時に失敗することもあります。失敗を繰り返さないように私たちが応答することが大切なのです。応答しなければもう一度やり直しになります。神には摂理があります。その摂理がきた時、センスがあるかないかで受け取れるのか受け取れないかが決まります。“ピッピ”と感じるしかありません。それが感じられるのか感じられないのかその差です。“空気を読む”という言葉がありますが、“神の空気を読む”ということ。読めないと神の祝福を受け取る事ができません。ハイデルベルク信仰問答の28番目には「神の摂理を知ると、どのような利益がわれわれにあるのでしょうか。」との質問があります。その答えとして「われわれは、あらゆる不遇の中にも忍耐深く、幸福の中には感謝し、未来のことについては、われわれの依り頼むべき父に、よく信頼するようになる。」とあります。反対に摂理を知らないと忍耐はできず、感謝もできず、未来について神に信頼できなくなります。摂理を理解している人としていない人の違いは明白です。私たちは神の国と神の義を第一にするべきであり、これらは神の命令である、神を愛し、自分を愛する如く周りの人を愛するということにつながります。リベカは神を愛し、周りの人を愛していました。だから神の時が訪れた時にすぐさま行動することができました。感謝がある人は周りの人に分けてあげることができます。ですから私たちはいつも感謝と恵みを心に溢れさせていきましょう。私たちの敵である悪魔は私たちの収穫する実をすべて持ち去ってしまおうとしています。明日があると思っている内になくなってしまふこともあります。今日しなければならぬことは今日していなくてはなりません。神の摂理に応答する為に**①泉を絶やさない**。どんな事があっても絶やしてはいけません。絶やす方法はフタをすることです。フタをすることは目の前に起こることに目を向け“無理”“やらない”“知らない”などによって行うことを止めてしまうことです。また泉が悪いもので満たされてしまっているのは良い影響を与えることができません。しかし私たちは新しい人生へと変わったことを忘れてはいけません。イエスキリストによって新しく変えられ泉をわきあがらせて下さいました。しかし泉を絶やすのは私たちなのです。泉を絶やさないために**②心と言葉を見張っていきましょう**。（箴言4：20～27）私たちは力の限り、心を見張っていく事が言われています。いのちの泉は見張っている中から湧くと約束しています。ですから私たちは自分を見張ることを止めてはいけません。私たちは魂の指揮官ですから、自らで制御することができます。失敗した時、落ち込むことは簡単です。しかし自分の心を見張り、同じことを繰り返さないようにすることが大切なのです。私たちは前を見、周りに心を配りながら進んでいきましょう。（ヤコブ3：9～11）そして私たちが出す言葉はどのような言葉でしょうか。私たちは甘い、愛のある言葉、すなわち周りの人を立てあげる言葉を出していきましょう。泉を絶やさないために**③神に信頼する**。私たちの泉を湧き上がらした方は誰でしょうか。（ヨハネ4：13～14）サマリアの女を通してサマリアはいのちの泉が湧き、幸せになっていきました。神に信頼するものは神の摂理を祝福の中で受ける事ができます。神の摂理とはその時は良いものと感じられないこともあります。しかし振りかってみるとそこには祝福に満ちていて全てが良かったと言えるのです。神の摂理を知り、私たちに用意してある将来と希望を受け取りましょう。神の恵みは怒涛のごとくきます。私たちはしっかり備えていないと受け取る事ができません。今日読んだ聖書にはたくさんの登場人物が出てきます。すべての人が神の摂理の中で正しい行動した故に、12部族の父であるヤコブが生まれることとなります。アブラハム、イサク、ヤコブの神と言われますが、同じ神が私の神です。アブラハムに働いた神は私たちに働いてくれます。神は私たちと共にいて祝福しようとしています。私たちは神の摂理を感じ応える人生、泉から溢れ流れさせ周りの人に恵みを流していきましょう。

（要約者：平澤一浩）